

カーボンニュートラル実現に貢献

地球温暖化防止に向けて

令和6年度 気候変動アクション 環境大臣表彰 受賞者一覧

開発・製品化部門			
緩和分野	気候変動アクション大賞	株式会社LIXIL	PV（太陽光発電）ロールスクリーンシステムの開発と実装
	気候変動アクション環境大臣表彰	JFEアドバンテック株式会社	気体の漏れを見える化して省エネルギーを推進。世界初のポータブル製品で実現。
		株式会社誠和／佐賀市 政策推進部 バイオマス産業推進課	廃棄物をバイオマス資源化する循環社会を創るエネルギーデザイン
緩和・適応分野	気候変動アクション大賞	三菱重工サーマルシステムズ株式会社	低GWP冷媒HFO-1234yfを適用した大容量ターボ冷凍機JHT-Y/JHT-YIシリーズの開発
		国立大学法人熊本大学／熊本県／球磨村	全国初の電動スクールバスの実証による地域の脱炭素化、強靱化の取り組み
先進導入・積極実践部門			
緩和分野	気候変動アクション大賞	株式会社興和	チャレンジング地中熱。Road to「ZEB」
	気候変動アクション環境大臣表彰	清水建設株式会社	超環境型オフィスにおけるカーボンニュートラル活動と水素社会実現活動
		旭化成ホームズ株式会社	ハウスメーカー由来の電力事業による循環型エネルギー社会の実現
		株式会社長谷工コーポレーション	CO ₂ 排出量実質ゼロ「サステナブランシェ本行徳」GREENリノベーション
		北海道北部風力送電株式会社	北海道道北地域の豊かな風資源を風力発電に活用するための国内最大の蓄電池システムを含む送電網整備プロジェクト
		ヤマト運輸株式会社／川崎未来エナジー株式会社／川崎市役所	地産再エネを100%使用した全台EVの宅急便営業所
適応分野	気候変動アクション大賞	トヨタ紡織株式会社／株式会社竹中工務店	次世代へ紡ぐ、サステナビリティに配慮した省エネ・ウェルネスオフィス
		アースサポート株式会社	使用済太陽光パネルのリユース・リサイクルシステムの確立
		気候変動アクション環境大臣表彰	オリックス・アセットマネジメント株式会社
緩和・適応分野	気候変動アクション大賞	株式会社一の坊	地球環境にやさしい温泉リゾートのCO ₂ 削減及び気候変動被害軽減への取り組み
	気候変動アクション環境大臣表彰	未来工業株式会社／株式会社大阪テクノクラート／大和ハウス工業株式会社	【全国展開】工場における地中熱と低温排熱の冷暖房への活用
普及・促進部門			
緩和分野	気候変動アクション大賞	東京ガス株式会社／株式会社住環境計画研究所	脱炭素・SDGs推進省エネ教育プログラム「サステナッジ教育」
	気候変動アクション環境大臣表彰	学校法人菊武学園 名古屋産業大学 環境経営研究所／学校法人 高田学園 高田中・高等学校	小・中学校、高等学校における緑化木調査の系統的支援と海外展開
		株式会社ハースト婦人画報社	“環境課題を自分ゴト化”する、ライフスタイルメディアのポジティブな情報発信
		大成建設株式会社	グリーン・リニューアルZEBの取り組み
適応分野	気候変動アクション大賞	該当なし	
	気候変動アクション環境大臣表彰	株式会社北海道新聞社 編集局報道センター	連載企画「気候異変」
		大和ハウス工業株式会社	気候危機に負けない！ひと・まち・くらしを守る16の取組み
緩和・適応分野	気候変動アクション大賞	大塚製菓株式会社	自治体共催の健康会議を開催し熱中症対策を促進
		公立大学法人 静岡文化芸術大学 カスから生まれるプロジェクト	カスから生まれるプロジェクト
	気候変動アクション環境大臣表彰	株式会社ファミリーマート	食支援と食品ロス削減の促進 国内最大級規模のフードドライブを展開
		株式会社サカモト	森の麓の拠点「さとのえ」の取り組み
		学校法人 新渡戸文化学園 新渡戸文化中学校・高等学校	地球温暖化防止と森林保全を目的としたFSC認証を普及・促進する活動
		NPO 法人 SDGs Spiral	ゴミで世界を笑顔に！SDGs万華鏡“KAGUYA”プロジェクト
イノベーション発掘・社会実装加速化枠			
該当なし			
ユース・アワード		フードバンク彩鳥	APU及び亀川地域におけるフードパントリー活動

脱炭素へ取り組み加速

2024年は国内では夏から秋にかけて記録的な暑さが続いた。こうした極端な気候の発生頻度が世界中で増えていることを背景に、国連の気候変動枠組条約第29回締約国会議(COP29)では、パリ協定第6条の詳細な運用ルールが決定した。こうした中、環境省がカーボンニュートラルな社会の実現に貢献する取り組みを表彰する「気候変動アクション環境大臣表彰」が12月2日に開かれた。

パリ協定運用決まる

1800年の気象庁による統計開始以来、今年の夏(6-8月)の平均気温は平年との差で西日本と沖縄・奄美で1位、東日本でも23年と同じ1位タイの高温となった。また、秋(9-11月)に於いても東・西日本と沖縄・奄美では1位の高温を記録した。5-9月における熱中症で救急搬送された人数は全国で9万人を超えるなど、今年の暑さによる影響は大きい。

環境大臣表彰 受賞 28件

環境省は気候変動対策の推進の一環として、毎年「気候変動アクション環境大臣表彰」を行っている。気候変動の緩和とGHP排出抑制対策、や気候変動への適応(気候変動の影響による被害の回避・軽減対策)に関し、顕著な功績があった個人や団体(自治体や企業、学校などを含む)の功績をたたえて表彰する事業だ。

緩和分野は省エネルギー技術や新エネルギー製品など、国内外のGHG排出を低減するよう優れた技術開発・その製品化を進めたことなどを対象にする。

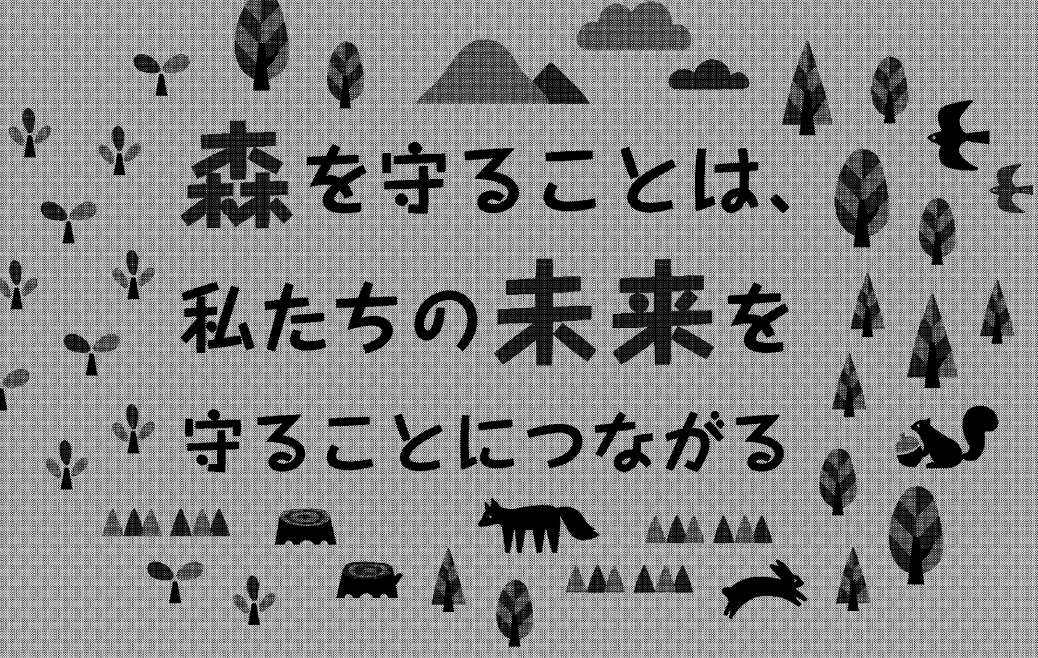


令和6年度気候変動アクション環境大臣表彰。喜びあふれる受賞者たち

有などが課題となってくる。わが国が推進している二国間クレジット制度(J-CM)は、すでに6条に対応した手続きや体制の整備を進め、29のパリ協定6条実施パートナー国と250件以上のプロジェクトを実施している。プロジェクトのさらなる拡大・加速や23年4月に立ち上げた「パリ協定6条実施パートナーシップ」を通じた世界各国への展開に取り組んでいく。

nepia
ネピコ

パッケージ包装の素材を「プラスチックフィルム」から「紙」にすることや、FSC®認証紙、バイオマス素材を採用。原料・商品規格からパッケージまでサステナブルな商品です。



領域をこえ 未来へ
OJI nepia

木は持続可能な資源です。



1 植える

適切に管理された森林(植林)の木は、伐採後もまた苗木が植えられて成長していきます。

2 育てる

木は、成長過程で二酸化炭素(CO₂)を吸収し、根・幹・枝葉に炭素(C)を固定し、酸素(O₂)を放出します。森林は、地球温暖化の原因となるCO₂など、温室効果ガスの削減に寄与します。

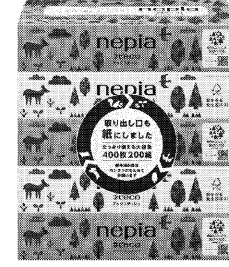
3 利用する

成林し収穫期を迎えた木や、間伐した木は大部分が製材に。利用できない端材などは紙になります。紙は、古紙として回収され再び紙に戻ります。

また、森を保全することは、生態系など生物多様性の保全にもつながります。

商品ラインナップ

ネピコ ティッシュ
取り出し口も紙製に!



ネピコ トイレットロール



ネピコ キッチンタオル



ネピア公式オンラインショップ nepia銀座店限定販売

ネピコ バイオマスマスク
植物由来の素材を80%使用したマスク



※パッケージは変更になる場合がございます。

大切な命を守り
明るい未来を創造する

新製品

DIK-G300 マルチ土壌水分センサ
DIK-D300 コーン型土壌水分センサ
DIK-L900 IoTデータロガー

▶日本初(※※※※)高含水率土壌計測に最適な土壌に合わせた測定周波数が選択可能
▶傾斜測定分解能0.01度のセンサを内蔵 ▶2種類の電極タイプ(針型、コーン型)に対応
▶温度・EC(電気伝導度)も同時に計測可能 ▶専用IoTロガーにより遠隔監視が可能

用途 ▶土砂災害危険地域での土壌水分・傾斜変化監視
▶ため池底土や堤防の浸食状態監視 ▶海洋付着の塩害の監視

土と水の環境測定機器メーカー
大起理化工業株式会社 www.daiki.co.jp
〒365-0001 埼玉県瑞穂市赤城台212-8 TEL 048-568-2500/FAX 048-568-2505

Debut!

超微粒摩砕機

自己循環型

<特許出願中>

Masuko

スーパーマスコロイダー

この度弊社が開発に成功した「自己循環型スーパーマスコロイダー」は、セルフポンピング機能により繰り返し粉砕を全自動で行うことが可能になり、ナノ領域のスラリーを手軽に得ることができるようになりました。また、本機の粉砕室内は処理物で隙間なく満たされているため、空気に触れることもなく品質劣化はほとんどありません。

循環システム

巨粒グラインダー

ナノの世界に挑戦する

増幸産業株式会社

〒332-0012 埼玉県川口市本町1-12-24
Tel.048(222)4343(代) Fax.048(223)9790 <http://www.masuko.com>

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

マックス・ミライ

SeesawEdge

基板対電線接続用 2.0 mmピッチ
高信頼性カードエッジコネクタ

Color Block Connector

基板対電線接続用 3.0 mmピッチ
ストレートタイプ(2列)コネクタ

このコネクタ
地球温暖化
抑えます

日本端子のカーボンニュートラル対応コネクタ

NT

日本端子

www.nippon-tanshi.com

展示会

企業—環境経営を発信

社会的・経済的課題 考える

小中学生—校外学習の一環

「SDGs Wee k EXPO2022」について取り組み、東京ビッグサイトで12月4日から6日まで開催した。会期中、都内近郊の小中学生による校外学習としての来場、見学が多くあり、会場全体が環境問題を考える教材として活用された。

ブースでは自然環境保全と持続可能性を追求した姿勢を来場者にアピールした(エコプロ2024)。

各企業が最新技術や取り組みを披露する展示会では、環境をテーマにした開催が増えている。出展者は環境負荷低減への取り組みや事業の持続可能性メインにした展示をし、企業のイメージアップを図る。

「2025NEW環境展」と「2025地球温暖化防止展」は、25年5月28日から30日まで、東京ビッグサイトで開催する。主催は日報レジネス。破砕・粉砕機や水処理装置などを中心に展示され、省人化や安全性を高め、太陽光パネルリサイクル、再資源化、廃棄物処理技術など幅広い分野から出展する。

王子ホールディングスは環境への取り組みを推進しており、家庭紙ブランド「ネピア」は適切に管理された森林に由来する「FSC認証紙」を採用。「王子の森」と呼ばれる64万杉にもおよぶ社有林では、その一部を環境保全林に定め、持続可能な森林経営を実践する。

森林資源の活用にも注力し、石油由来素材に代わるバイオマスプラスチックやバイオエタノールの製造に成功。量産体制の構築を目指している。また医療分野においても、木質由来の医薬品を開発中。これらの取り組みを「グリーンイノベーション」と位置付け、全社を挙げて推進する。創業から150年以上にわたり、イノベーションを繰り返してきたDNAを引き継ぎ、時代を動かしていく。

増幸産業は地球環境問題に対する継続的な取り組みを展開する。2001年のISO14001取得を機に、ゴミの分別・ハイブリッド車(HV)導入、照明のLED化、製品梱包時の緩衝材の見直しを実施してきた。また、23年は石油由来の緩衝材を全廃し、段ボールを緩衝材とするためにシコレッダーを導入。梱包用PPバンドを紙製に変更するなど、全社を挙げての活動を行っている。このほか、販売後の製品の回収・再資源化を検討中だ。

また近年は植林活動や地元の清掃活動、災害地域へのボランティア活動(直近では石川県珠洲市に延べ20人の社員を派遣)を通して地域貢献にも力を入れている。

有力企業の製品・技術 順不同

旭化成グループ

旭化成グループはマテリアル、住宅、ヘルスケアの3領域で事業を展開している。事業活動における温室効果ガス(GHG)排出量について、2050年のカーボンニュートラルを目指して削減を進める。これとともに、同社グループの多様な技術・事業でバリューチェーン全体のGHG排出量を削減し、社会のGHG排出量削減への貢献を目指す。「世界の人のいのちとくらしに貢献します」というミッションのもと、持続可能な社会への貢献と持続的な企業価値向上を追求する。二つのサステナビリティ(持続可能性)を好循環させていくことで、世の中のニーズを捉え、さまざまな社会課題の解決に貢献していく。

大起理化工業

大起理化工業は高付加価値の土壌水分・硬度計を手がける。「土と水を守る」という経営理念のもと、大地と水の環境保全を通じて、地球温暖化防止や循環型社会の構築に貢献している。

農業・防災関連の研究機関や大学、民間企業の研究者などとの連携に意欲的で、多様なニーズを製品化。土壌や地下水の環境調査、農業の生産性向上・農地改良につながる測定機器など世界初・オンリーワン製品を数多く開発し、市場に投入。温暖化に加え、人口増加や食糧難など世界を取り巻く課題は山積している。

今後も新しいアイデアを生かし、顧客に必要とされる製品を提供することで社会貢献を図っていく。

増幸産業

増幸産業は地球環境問題に対する継続的な取り組みを展開する。2001年のISO14001取得を機に、ゴミの分別・ハイブリッド車(HV)導入、照明のLED化、製品梱包時の緩衝材の見直しを実施してきた。また、23年は石油由来の緩衝材を全廃し、段ボールを緩衝材とするためにシコレッダーを導入。梱包用PPバンドを紙製に変更するなど、全社を挙げての活動を行っている。このほか、販売後の製品の回収・再資源化を検討中だ。

また近年は植林活動や地元の清掃活動、災害地域へのボランティア活動(直近では石川県珠洲市に延べ20人の社員を派遣)を通して地域貢献にも力を入れている。

王子ホールディングス

王子ホールディングスは環境への取り組みを推進しており、家庭紙ブランド「ネピア」は適切に管理された森林に由来する「FSC認証紙」を採用。「王子の森」と呼ばれる64万杉にもおよぶ社有林では、その一部を環境保全林に定め、持続可能な森林経営を実践する。

森林資源の活用にも注力し、石油由来素材に代わるバイオマスプラスチックやバイオエタノールの製造に成功。量産体制の構築を目指している。また医療分野においても、木質由来の医薬品を開発中。これらの取り組みを「グリーンイノベーション」と位置付け、全社を挙げて推進する。創業から150年以上にわたり、イノベーションを繰り返してきたDNAを引き継ぎ、時代を動かしていく。

増幸産業は地球環境問題に対する継続的な取り組みを展開する。2001年のISO14001取得を機に、ゴミの分別・ハイブリッド車(HV)導入、照明のLED化、製品梱包時の緩衝材の見直しを実施してきた。また、23年は石油由来の緩衝材を全廃し、段ボールを緩衝材とするためにシコレッダーを導入。梱包用PPバンドを紙製に変更するなど、全社を挙げての活動を行っている。このほか、販売後の製品の回収・再資源化を検討中だ。

また近年は植林活動や地元の清掃活動、災害地域へのボランティア活動(直近では石川県珠洲市に延べ20人の社員を派遣)を通して地域貢献にも力を入れている。

「アタシたちは今」「歴史の曲がり角にいるのよ」「あら、タイヘン」

「でも見るだけじゃダメ」

AsahiKASEI

Creating for Tomorrow

「ちょっと見た?今の」「ありゃ完全にヤっちゃってるわね」「あ、また来たわよ!」「フウ~!」。赤、青、黄の信号たちの、あまりの盛り上がり、ときどき遊びにやってくる鳥も「また、くだらないことで盛り上がってんでしょ?」と呆れ顔。「最近よく見るのよ」「ケムリを出さないクルマ」「クリーンなクルマ」「来たわよ来たわよ!」「フウ~!」信号たちが夢中になっていたのは最近街に増えてきた水素カーだったのです。旭化成は、CO2を出さない*未来のために、グリーン水素をつくるプロジェクトに参画しています。(*CO2を出さない=CO2の実質排出ゼロ)